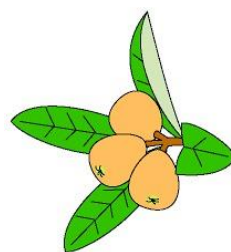


進路指導部通信

県立高等特別支援学校

進路指導部

初夏の季節となりました。2, 3年生は現場実習、1年生は校内実習（特別実習）を終えて、「働く」ことについて具体的なイメージがふくらんできたと思います。気温、湿度も上がってくるこの時期、体調管理を含め、遅刻、欠席がないように、ご家庭でもご指導よろしく
お願い致します。



卒業生のがんばりを紹介します。(その1)

阪神間の食品メーカーに勤めるAさん(男性)。本校を卒業して10数年になります。製品を作る最初の工程を受け持ち、白い長靴、足下まである長いエプロンを着けて作業をしています。Aさんの職場はいわゆる町工場で、職場はエアコンの効いたクリーンルームのようなところではありません。湯気を上げて製品を作る機械が、すぐそばで動いていて、工場を一步出れば、下町の町並みが続くようなところにあります。夏場は汗だくになるような職場です。

Aさんの職場を訪問するたびに専務さんが案内をしてくださり、Aさんのことを愛称で呼びながら、日頃の仕事ぶりを教えてくれます。「担当の仕事は、一人で任せておけるし、もう10年近く働いてくれて、給料も上げてあげたいと思っているんだけど・・・。」「でも、他の技能が増えていかないと、周りの社員との釣り合いもあるのでなかなか給与体系を変えていくのは難しい。」「でも、もう30歳になるから、将来Aさんが自立することも考えてあげないといけないなあ。」現実の厳しさもありながらも、親身になってAさんのことを話してくださる専務さんを見て、Aさんのこれまでの真面目な働きぶりがうかがわれました。現場でAさんに声をかけるとニコッと笑顔で挨拶してくれ、ホースを持って機械を水洗いする姿を見て、失礼しました。

